

本書を読むにあたって

コロナ禍が教訓に

この本をご覧になつて多くの皆さんは、コロナに苦しめられたと思います。それが幼少時だったという方もいるでしょうか。コロナ。2020年から約三年間、日本社会に大きな影響を与えた新型コロナウイルス感染症（COVID-19）で「コロナ禍」とも呼ばれた社会現象でした。

これからの社会科（歴史や社会など）の教科書に掲載されるのではないかという程の大きな出来事でした。でも、とつぜん起こったので、適切な対応がとれず惨めな状態に陥りました。そして、人の健康を守る行政関係者はこれを教訓に、人のみならず飼育動物や野生動物とそれらが生きている環境の健康（健全性）を一体化して考えるワンヘルス（One Health、ひとつの健康）という見方での対応を考えています。要するに感染症へのリベンジです。

難しそうな言葉は読み飛ばそう

でも、ワンヘルスなんてさっぱりわかりませんね。それを知って頂くためこの本を書きました。いや、ただの指南書ではなく、ちょっと難しい表現ですがワンヘルスという考え方や見方を、公共知や教養そして文化にする！ことを目論見ました。ここまでの短い文章ですら公共知、指南、目論見など難しそうな言葉や単語を使ってきました。気になるならお手元のスマホで調べてください。面倒なら読み飛ばしましょう。本筋には影響しません。

さて、この本を書いた（著者）二人は、本来、経済・社会、文化といった世界とはほとんど無縁で過ごしてきた動物専門の医師、つまり獣医さん（獣医師）です。ただ街中で見かける犬や猫を診る動物病院のセンセイではありません。村田（ムラ）は動物園の獣医さんで、最近まで獣医さんを育てる大学（獣医大）でも働いていましたし、浅川（アサ）も獣医大にいました。大学というと普通四年間のイメージですが獣医大は六年間、人のお医者（医師）や歯医者（歯科医）、薬剤師と同期間の教育システムです。

農水大臣が獣医さんの免許を出す

つまり小学校と同じ六年通って、学生さんはその間一所懸命に勉強し、獣医師免許を得る国家試験（国試）合格後、農林水産大臣からその免許証をもらいます。この大臣は本来とても地味な存在でしたが、この本を書いている2025年前後、TVやSNSなどに盛んに登場しました。お米がとても足りなくなってきたからです。要するに獣医さんのお仕事は農（第一次産業）系と知りましょう。

ちなみに人のお医者さん・歯医者さん・薬剤師さんの免許は厚生労働（厚労）大臣から授与されます。こちらは人健康系としておきましょう。ワンヘルスでは、ちよつと堅苦しいですがこういった農林水産省、厚生労働省など国の役所（省）が強く関わります。

AIは案外うっかり屋さん

先程話したように、この本は二人で書いたので「私たちが…」と表現をされたらムラ&アサだと読み替えて下さい。二人は仲が良いですが別の人（個人）なので、それぞれ独自の考えを持っています。本とは著者の考えで出来上がりますが、「私たちが…」とあれば二人で確認し書かれたものと理解して下さい。

でも今、二人とも獣医大は定年退職したのでちょっと緊張感が失われうっかりミス連発もあるでしょう。定年になった方が傍にいらつしやいませんか。そういつた雰囲気はその方におき下さい。あまり気が進まない？ シニア（高齢の人）は直ぐ昔話をしてウザい！ AI（人工知能）が全部教えてくれるので要らない？ でも、そのAIに誰かが元になる情報を入れないと始まりません。

また、それも入れ込む情報は全てではありませんし、大事な情報の欠落などうっかりミスもあります。私たちもこの本を書く間、そういつた誤りや欠損などを沢山見つけました。AIといつても所詮人が作った仕組みです。うっかり屋さんなのは実に人間らしいと思います。試しにそのうっかり屋さんの検索機能で、この本の題名にあるワンヘルスで検索をしてみましょう。すると、厚労省や環境省の国の機関、福岡県庁などの地方自治体、WWF（世界自然保護基金）や日本獣医師会などの民間団体のウェブサイトがヒットしました。

わからないことは出ない

でも、スクロールして読み込んでもワンヘルス自体が何なのかを明確に答えてはいません。当たり前ですが、いくらAIであっても情報自体が無い（わからない）ことは、表示しようがないのです。次は保全医学。すると、ムラの保全医学研究所というウェブ上の仮想ラボがヒットしました。つまり、詳しく知りたいのならそちらをどうぞ！とAIが親切にすすめているのだと思います。

よって、この本では、AIを真似て、各章末尾にムラの仮想ラボ上の文章を抜き書きし、少し趣向を変えてコラムという形で載せました。それでは保全医学という新興サイエンスの息吹を堪能され、サバイバル文化としてのワンヘルスの世界を楽しんで下さい。